



2008年岩手・宮城内陸地震の被害と地盤の永久変位の関係

神山 眞¹⁾、松川忠司²⁾、穴澤正宏³⁾

1) 正会員 東北工業大学、教授 工博

e-mail : mkamiyam@tohtech.ac.jp

2) 東北工業大学、助手

e-mail : matukawa@tohtech.ac.jp

3) 東北工業大学、准教授、理博

e-mail : anazawa@tohtech.ac.jp

要 約

本論文は国土地理院が運営するGPS技術による地殻変動観測システムGEONETにより求められた2008年岩手・宮城内陸地震の際に生じた地盤の永久変位と同地震による被害分布との関係を考察したものである。2008年岩手・宮城内陸地震では4学協会合同調査委員会により各種構造物の被害がGISシステムとしてまとめられている。ここでは、GEONETによる水平、鉛直の両方向の地盤永久変位、強震記録による震度の分布が被害分布と比較され、同地震で顕著であった斜面被害は地盤永久変位の分布とより強い相関があることが指摘される。

キーワード： 2008年岩手・宮城内陸地震、GEONET、GPS、永久変位、被害